

平成22年度

主要農作物品種審査会資料

平成22年9月

宮 城 県

目 次

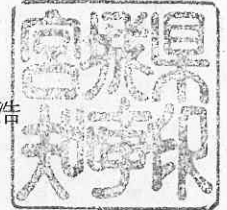
◎ 知事からの諮問	1
◎ 審議事項	
I 平成22年度奨励品種決定調査に供する品種（麦類）について	
(1) 要望される品種	2
(2) 供試品種及び系統	2
(3) 平成21年度麦類奨励品種決定調査供試系統の特性概要	3
◎ 参考資料	
I 奨励品種の決定基準(国) (主要農作物種子法, 主要農作物種子制度運用基本要綱, 運用通達・別記1)	5
II 宮城県奨励品種決定基準	6
III 宮城県主要農作物奨励品種区分基準	7
IV 宮城県主要農作物基幹・特定品種の移行・廃止等の基準について	8
V 宮城県主要農作物の基幹品種, 特定品種の区分	9
VI 奨励品種決定調査の方法(国) (主要農作物種子法, 主要農作物種子制度運用基本要綱, 運用通達・別記2)	10
VII 宮城県奨励品種決定調査方法	11
VIII 主要農作物品種審査会条例	13
IX 主要農作物品種審査会構成員名簿	15
X 奨励品種特性表(水稻)	16
XI 奨励品種特性表(麦類)	17
XII 奨励品種特性表(大豆)	18
XIII 水稻奨励品種の年次別作付面積	19
XIV 麦類奨励品種の年次別作付面積	20
XV 大豆奨励品種の年次別作付面積	21



農園環第 399号
平成22年 8月24日

主要農作物品種審査会会長 殿

宮城県知事 村井 嘉浩



奨励品種決定調査に供する品種（麦類）について（諮問）

このことについて、主要農作物品種審査会条例（昭和27年宮城県条例第60号）第1条の規定により、貴会の意見を求めます。

記

【諮問内容】

(1) 平成22年度奨励品種決定調査に供する品種（麦類）について

担当	農林水産部農産園芸環境課 農産食糧班 佐藤
電話	022-211-2841
FAX	022-211-2849
e-mail	sato-ma616@pref.miyagi.jp

審議事項

I 平成22年度 麦類奨励品種決定調査に供する品種について

(1) 要望される品種

- ①大麦： ミノリムギ， シュンライより精麦白度が高く， 加工時の碎粒が少ないもの。
- ②小麦： パン用として， ゆきちからより早生で， 赤かび病に強く， 穂発芽性が難であるもの。

(2) 供試品種及び系統

①大麦

種類	早晩性	予備調査	本調査	現地調査
大麦	早生		関東皮88号(1) 東山皮111号(1) (標) シュンライ	
	中生		東北皮40号(2) (標) ミノリムギ	
計		0	3	0

②小麦

種類	早晩性	予備調査	本調査	現地調査
小麦	早生			
	中生	東山50号 (標) シラネコムギ (比) ゆきちから	東北225号(1) 東北227号(1) (標) ゆきちから (比) シラネコムギ	東北225号(1) 東北227号(1) (標) ゆきちから
計		1	2	2

注1) 品種及び系統名右側の()内数字は本調査及び現地調査供試年数を表す。

(3)平成 22 年度 麦類奨励品種決定調査供試系統特性一覧

①大麦

1) 本調査

系統名	組み合わせ	世代	特性の概要および調査継続理由
東北皮40号	盛系C-191 (シジューボシ) /盛系C-B1-b	F14	<p><ミノリムギ対照></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ やや早生。播性V。 ○ 赤かび病にはわずかに強い。 ○ 砕粒率は同程度に低く、優れる。 ○ 精麦白度は「ファイバースノウ」と同程度が優れ、炊飯時の白度も同等に優れる。 ● ミノリムギと比較して、精麦白度、砕粒率は同程度。 <p>平成22年度は、加工適性の年次データを得るため継続する。</p>
関東皮88号	東山皮96号 (ファイバースノウ) /泉系A133-3 // 東山皮 101号 (シルキースノウ)	F9	<p><シュンライ対照></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ やや早生。播性IV。 ○ 縞萎縮病 I～IV型ウイルス抵抗性。 ○ 精麦白度は高く、砕粒率は低く、優れる。 ○ プロアントシアニン欠失遺伝子 (<i>ant 28</i>) を持つため、ポリフェノール含量が少なく、炊飯後の褐変程度がごく小さい。 <p>平成22年度は、加工適性について調査するため継続する。</p>
東山皮111号	関東皮75号 /東山皮94号	F11	<p><シュンライ対照></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 早生。播性IV～V ○ 赤かび病抵抗性は“中”で、優る。 ○ 成熟期は3日早く、やや低収。 ○ ファイバースノウと比較して、精麦白度は劣るが、加熱後の色相は優る。 <p>平成22年度は、加工適性について調査するため継続する。</p>

2) 予備調査

系統名	組み合わせ	世代	特性の概要
なし			

注) 特性の概要について

○：育成地における成績

●：奨励品種決定調査成績

②小麦

1) 本調査

系統名	組み合わせ	世代	特性の概要および調査継続理由
東北225号	盛系C-138 /東北205号	F16	<p><ゆきちから対照></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パン，中華めん用の硬質系統。播性IV。やや早生。 ○ 穂発芽性は難。赤かび病は中，縞萎縮病は強。製粉歩留は高い。製パン性が優れる。中華麵適性は食感，食味が同程度。 ○ 成熟期は同程度～2日遅く，収量は同程度で容積重は大きい。 ● ゆきちからと比較して，成熟期が3日早く，赤かび病の発病程度は少ない穂発芽は同様に“無”。 <p>平成22年度は，成熟期，赤かび病，穂発芽の発生程度及び加工適性について調査するため継続する。</p>
東北227号	ちF3-180 //盛系b-1417 /CDC Teal	F13	<p><ゆきちから対照></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ パン用の硬質系統。播性V。やや早生。 ○ 穂発芽性は難。赤かび病は中，縞萎縮病は強。製粉歩留は同等～高い。製パン性が優れる。 ○ 成熟期は同程度～1日遅く，収量は多く，容積重と千粒重も大きい。 ● ゆきちからと比較して，成熟期が1日早く，赤かび病の発病程度は少ない穂発芽は同様に“無”。 <p>平成22年度は，成熟期，赤かび病，穂発芽の発生程度及び加工適性について調査するため継続する。</p>

2) 予備調査

系統名	組み合わせ	世代	特性の概要
東山50号	長交1490・ 関東123号 /東山32号 //キヌヒメ	F11	<p><シラネコムギ対照></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ めん用の軟質系統。播性IV。やや早生。 ○ 穂発芽性は難。赤かび病はやや弱，縞萎縮病は強。製粉歩合は高い。 ○ うどん官能評価は同等。 ○ 成熟期は2日早く，収量は多く，容積重と千粒重とも大きい。

注) 特性の概要について

- ：育成地における成績
- ：奨励品種決定調査成績

参 考 事 项

I 奨励品種の決定基準（国）

（主要農作物種子法，主要農作物種子制度運用基本要綱，運用通達・別記1）

1 奨励品種の採用基準

（1）都道府県は，奨励品種に採用する場合には，おおむね次の基準のいずれかを満たしている品種のうち，普及上特に支障となる欠点のないものの中から選択するものとする。

ア 収量，病虫害抵抗性，品質その他栽培上の重要な特性及び生産物の利用上の重要な特性を総合的に勘案し，既存の奨励品種（以下「対照品種」という。）比較して明らかに優れていると認められること。ただし，奨励品種に採用しようとする品種が，普及対象地域の範囲又は生産物の用途について制限のある場合を妨げない。

イ 収量，病虫害抵抗性，品質その他の栽培上の重要な特性又は生産物の利用上の重要な特性のいずれかについて，対照品種と比較して明らかに優れていると認められること。

（2）奨励品種に採用する場合には，（1）の基準を基礎として奨励品種を普及上必要な種類に区分し，当該区分ごとに特別な名称を附することができるものとする。

2 奨励品種の廃止基準

都道府県は，奨励品種採用後次のいずれかに該当すると認められるときは，当該奨励品種を廃止することができる。

（1）奨励品種の特性が変化し，1の（1）の基準を満たさなくなった場合

（2）普及対象地域で栽培上重要とされる特性又は生産物の利用上重要とされる特性に関し，重大な欠点が明らかになった場合

（3）当該品種に係る作付面積が著しく減少し，今後とも増加の見通しが無い場合

（4）新たな奨励品種によって代替が可能である場合

（5）当該品種の種子の供給が困難となった場合

Ⅱ 宮城県奨励品種決定基準

(昭和63年3月25日決定)

1 奨励品種の採用基準

知事は、奨励品種に採用する場合には、おおむね次の基準のいずれかを満たしている品種のうち、普及上特に支障となる欠点のないものの中から選択するものとする。

(1) 収量、病虫害抵抗性、品質その他の栽培上の重要な特性及び生産物の利用上の重要な特性を総合的に勘案し、既存の奨励品種（以下「対照品種」という。）と比較して明らかに優れていると認められること。ただし、奨励品種に採用しようとする品種が、普及対象地域の範囲又は生産物の用途について制限のある場合を妨げない。

(2) 収量、病虫害抵抗性、品質その他の栽培上の重要な特性及び生産物の利用上の重要な特性のいずれかについて、対照品種と比較して明らかに優れていると認められること。

2 奨励品種の廃止基準

知事は、奨励品種採用後次のいずれかに該当すると認められるときは、当該奨励品種を廃止することができる。

(1) 奨励品種の特性が変化し、1の基準を満たさなくなった場合

(2) 普及対象地域で栽培上重要とされる特性又は生産物の利用上重要とされる特性に関し、重大な欠点明らかになった場合

(3) 当該品種に係る作付面積が著しく減少し、今後とも増加の見通しが無い場合

(4) 新たな奨励品種によって代替が可能である場合

(5) 当該品種の種子の供給が困難となった場合

Ⅲ 宮城県主要農作物奨励品種区分基準

(平成19年2月9日決定)

(目的)

- 1 本県が推奨する主要農作物品種(水稲・麦類・大豆)を基幹品種及び特定品種の2区分とし、適地適品種の作付を推進する。

(名称区分)

- 2 奨励品種は次の名称に区分する。

(1) 基幹品種

生産・流通対策上、基幹となる品種

(2) 特定品種

基幹品種を補完する品種

(区分基準)

- 3 品種の構成は、基幹品種を熟期別に設定し、さらに、これを補完する特定品種を配することとする。

採用については、「主要農作物種子制度の運用について」(昭和61年12月18日付け61農蚕第6800号農産園芸局長通達)別記1「奨励品種の決定基準」1の(1)に定めるもののほか、下記の項目に照らし総合的に勘案して決定する。

(1) 基幹品種

生産、流通対策上、基幹となる品種として生産振興を図る必要のある品種

(2) 特定品種

ア 特定の気象・土壌条件に栽培が適している品種

イ 特定の用途に対し、一定量の需要が見込まれる品種

ウ 作業体系及び各種危険分散の要求を満たす品種

エ 生産者並びに消費者ニーズ等が特に強い品種

オ 暫定的に普及が望まれる品種

IV 宮城県主要農作物基幹・特定品種の移行・廃止等の基準について(内規)

(平成19年2月9日決定)

主要農作物(水稲・麦類・大豆)基幹・特定品種の採用・廃止については「宮城県奨励品種決定基準」及び「宮城県主要農作物奨励品種区分基準」に定めるもののほか、以下により行うものとする。

1 すでに普及している品種(県奨励品種以外のもの)の取り扱いについて

過去3ヶ年、概ね下記面積を超えて安定的に栽培されている品種については、奨励品種決定調査に供試することを検討する。

なお、これまで奨励品種決定調査に参考品種等として供試し、特性が明らかになっている品種については、既存データを活用し、検討することができるものとする。

水 稲	麦 類	大 豆
200 ha	100 ha	100 ha

2 基幹・特定品種の移行について

(1) 特定品種から基幹品種への移行について

特定品種のうち、下記面積を上回り、生産・流通対策上、特に必要とされるものについては、基幹品種への移行を検討する。

(2) 基幹品種から特定品種への移行について

基幹品種に採用されてから3年間連続して概ね下記面積を下回っており、今後増加の見込みのないものは、特定品種への移行を検討する。

作物名	面 積	備 考
水 稲	200 ha	類別区分の指定基準数量1,000tによる
麦 類	200 ha	銘柄区分Ⅱの基準数量500t以上による
大 豆	300 ha	1銘柄販売ロット500t以上

3 基幹・特定品種の廃止について

基幹・特定品種に採用されてから3年間連続して概ね下記面積を下回っており、今後増加の見込みのないものは、廃止を検討する。

水 稲	麦 類	大 豆
100 ha	50 ha	50 ha

4 その他

上記以外に必要な事項については、主要農作物品種審査会において検討を行うものとする。

V 宮城県主要農作物の基幹品種，特定品種の区分

1 水稲

	基幹品種	特定品種
早 生	やまのしずく	ゆきむすび(低アミロース米)
中 生	ひとめぼれ，ササニシキ， ササニシキBL(1～7号)，まなむすめ	トヨニシキ
晩 生	—	コシヒカリ
も ち	みやこがねもち	ヒメノモチ，もちむすめ
特 殊 用途米	蔵の華（酒造好適米）	たきたて(低アミロース米)， 美山錦(酒造好適米)

2 麦類

(1) 小 麦

	基幹品種	特定品種
中 生	シラネコムギ	ナンプコムギ，ゆきちから， あおばの恋

(2) 大 麦

	基幹品種	特定品種
早 生	シュンライ	—
中 生	ミノリムギ	—

3 大豆

	基幹品種	特定品種
中 生	タンレイ，あやこがね	スズユタカ，すずほのか，コスズ， タチナガハ，きぬさやか
晩 生	ミヤギシロメ	—

VI 奨励品種決定調査の方法(国)

(主要農作物種子法，主要農作物種子制度運用基本要綱，運用通達・別記2)

1 調査対象品種

(1) 奨励品種決定調査（以下「調査」という。）の対象となる品種は，次のすべての要件をみたすものの中から審査会の調査審議を経て決定するものとする。

ア 調査に支障のない程度に品種の固定が進んでいること。

イ 調査に必要な種子が十分に供給されること。

ウ 都道府県が定めた病虫害抵抗性その他の主要な特性について，検定により明らかにされていること。

エ 当該都道府県の対照品種との比較栽培試験等により，対照品種より改善された点が認められること。

(2) (1)の品種の育成者は，調査を受けようとする品種について，(1)のアからエまでの事項に関する資料を添えて都道府県に次に掲げる期日までに申請を行うものとする。ただし，あらかじめ当該都道府県と協議して別の期日を設けた場合には，この限りではない。

春夏作 2月末日

秋冬作 8月30日

2 調査の期間

(1) 調査の期間は，原則として3年とする。ただし，3年未満の調査であっても他の都道府県その他の機関の調査結果から調査対象品種の特性が明らかかな場合には，この期間を短縮することができる。

(2) 基本調査は，調査対象品種の特性を明らかにするため，第1年目に予備調査，第2年目以降に本調査を行う。ただし，当該品種の特性が明らかかな場合には，予備調査を省略することができる。

(3) 現地調査は，基本調査の予備調査が終了してから行う。

3 調査に用いる品種

調査には，次の品種を含めなければならない。

(1) 標準品種 原則として数県にわたる地帯に奨励品種として共通して普及しており，調査対象品種の比較対象の基準となる品種

(2) 比較品種 特定の形質を比較するための品種

4 耕種概要（略）

Ⅶ 宮城県奨励品種決定調査方法

(平成17年2月15日決定)

- 1 品種の育成者が奨励品種決定調査を受けようとする品種について、検定により明らかにしておくべき特性

農作物 の種類	特性の項目
稲	出穂期, 成熟期, 稈長, 穂長, 精玄米重, 玄米千粒重, 品質, 食味, 病虫害抵抗性(葉いもち, 穂いもち, 紋枯病等), 障害抵抗性(耐冷性, 耐倒伏性, 穂発芽性等)
麦 類	出穂期, 成熟期, 播性程度, 稈長, 穂長, 子実重, 容積重, 千粒重, 品質, 穂発芽性, 加工適正(製粉性, 粉色, 精麦白度等), 病虫害抵抗性(赤さび病, うどんこ病, 赤かび病), 障害抵抗性(耐倒伏性, 耐寒雪性)
大 豆	開花期, 成熟期, 主茎長, 分枝数, 子実重, 有粒重, 種皮色, 光沢, 品質, 病虫害抵抗性(ウイルス病, 立枯性病害, 紫斑病, センチュウ), 障害抵抗性耐倒伏性, 裂皮の難易)

- 2 奨励品種決定調査の耕種概要の基準

調査の種類	農作物 の種類	区 制		耕種法の種類	
		1区面積	区 数		
基 本 調 査	予 備 調 査	稲 麦 類 大豆	6 m ² 以上 10m ² 以上 12m ² 以上	2区 以上	作期, 施肥水準, 移植, 播種の方法等につ いて, 本県に最も普及している耕種様式 により調査を行う。
	本 調 査	稲 麦 類 大豆	6 m ² 以上 10m ² 以上 12m ² 以上	3区 以上	
現 地 調 査	稲 麦 類 大豆	20m ² 以上	2区 以上	作期, 施肥水準, 移植, 播種の方法等につ いて, 奨励品種適応地域ごとに最も普及 している耕種様式により調査を行う。	

3 奨励品種決定調査の調査項目の基準

調査の種類		調査の項目
基本調査	予備調査	<p>1 稲 播種期, 移植期(直播の場合は入水期), 出穂期, 成熟期, 発芽の良否(直播又は陸稲の場合に限る。), 稈長, 穂長, 穂数, 全重, 玄米収量, 標準品種と玄米収量の比較比率, 玄米千粒重, 玄米品質, 倒伏程度, 病虫害, 気象災害その他の障害に対する抵抗性, 有望度及び有利又は不利とした形質</p> <p>2 麦類 播種期, 出穂期, 成熟期, 発芽の良否, 稈長, 穂長, 穂数, 子実収量, 千粒重, 子実品質, 倒伏程度, 病虫害, 気象災害その他の障害に対する抵抗性, 有望度及び有利又は不利とした形質</p> <p>3 大豆 播種期, 開花期, 成熟期, 発芽の良否, 茎長, 分枝数, 子実収量, 百粒重, 子実品質, 倒伏程度, 病虫害, 気象災害その他の障害に対する抵抗性, 有望度及び有利又は不利とした形質</p>
	本調査	<p>1 稲 予備調査の項目に次の項目を追加する。ただし, 環境変化を受け難い項目は省略することができる。 心白又は腹白の多少, 搗精歩合及び食味</p> <p>2 麦類 予備調査の項目に次の項目を追加する。ただし, 環境変化を受け難い項目は省略することができる。 容積重及び子実加工品の品質</p> <p>3 大豆 予備調査の項目に同じ。ただし, 環境変化を受け難い項目は省略することができる。</p>
現地調査		<p>1 稲 基本調査の予備調査の項目に同じ。</p> <p>2 麦類 基本調査の予備調査の項目に同じ。</p> <p>3 大豆 基本調査の予備調査の項目から, 分枝数を除いたもの。</p>

Ⅷ 主要農作物品種審査会条例

[昭和27年宮城県条例第60号]

(設置)

第1条 知事の諮問に応じ、県の奨励すべき主要農作物（主要農作物種子法（昭和27年法律第131号）第2条第1項に規定する主要農作物をいう。）の品種（以下「奨励品種」という。）に関する重要事項を調査審議するため、主要農作物品種審査会（以下「審査会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 審査会は、次に掲げる事項を調査審議する。

- 一 奨励品種の決定基準に関する事項
- 二 主要農作物種子法第8条の規定により県が行う試験（以下「奨励品種決定調査」という。）に供される品種に関する事項（当該品種に係る奨励品種決定調査の継続及び中止に関することを含む。）
- 三 奨励品種決定調査の方法に関する事項
- 四 奨励品種の決定及び廃止に関する事項
- 五 その他奨励品種に関し必要な事項

(組織等)

第3条 審査会は、委員23人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、知事が任命する。

- 一 学識経験を有する者
- 二 関係団体の役員又は職員
- 三 県議会の議員
- 四 関係行政機関の職員
- 五 品種育成業者
- 六 県の職員

3 前項第1号及び第5号に掲げる者のうちから任命される委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 審査会に、会長1人及び副会長2人を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、会務を総理し、審査会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐するとともに、会長があらかじめ定めた順序により、会長に事故があるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。

(会議)

第5条 審査会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 審査会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 審査会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(幹事)

第6条 審査会に、幹事を置き、県の職員のうちから、知事がこれを任命する。

2 幹事は、審査会の所掌事務について、委員を補佐する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、審査会の運営に関し必要な事項は、会長が審査会に諮って定める。

附 則

この条例は、公布の日[昭和27年12月25日]から施行する。

附 則

この条例は、公布の日[昭和30年3月19日]から施行し、昭和30年1月18日から適用する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和35年11月1日から施行する。

附 則

この条例は、公布の日[昭和35年12月26日]から施行し、昭和35年11月1日から適用する。

附 則(抄)

(施行期日)

1 この条例は、公布の日[昭和42年10月16日]から施行し、昭和42年8月1日から適用する。

(経過措置)

2 この条例による改正前の主要農作物品種審査会条例第3条第1項に規定する会長又は副会長がそれぞれ行った行為は、なお効力を有する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日[昭和62年12月24日]から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に主要農作物品種審査会の会長又は副会長の職にある者は、改正後の第4条第1項の規定により会長又は副会長に互選されたものとみなす。

附 則

この条例は、公布の日[平成10年7月9日]から施行する。

Ⅸ 主要農作物品種審査会構成員名簿

(平成22年9月)

役職名	氏名	所 属 及 び 職 名
会 長	國 分 牧 衛	東北大学大学院農学研究科教授
副 会 長	中 鉢 充	全国農業協同組合連合会宮城県本部米穀部長
〃	布 田 順 一	社団法人みやぎ原種苗センター専務理事
委 員	岩 淵 せつ子	仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科教授
〃	坂 路 誠	東北農政局食糧部長
〃	中 村 功	宮城県議会議員
〃	佐 藤 公 夫	宮城県農業会議副会長
〃	齋 藤 満 保	宮城大学食産業学部教授
〃	高 橋 正 道	宮城県農林水産部次長（技術担当）
〃	水 多 昭 雄	宮城県古川農業試験場長
幹 事	阿 部 俊 彦	宮城県農林水産部 食産業振興課技術副参事兼技術補佐（総括担当）
〃	齋 藤 富 士 男	〃 〃 農業振興課技術副参事兼技術補佐（総括担当）
〃	大久保 栄 喜	〃 〃 農産園芸環境課長
〃	永 野 邦 明	〃 古川農業試験場 作物育種部長
〃	佐々木 俊 彦	〃 〃 水田利用部長

X I 奨励品種特性表 (麦類)

種別	品種名	来歴 (育成場所, 育成年次)	採奨用品種区分年次	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	* 芒の長短	* 株の開閉	穂発芽性	* 脱粒性	* 秋播性程度	千粒重 (g)		容積重 (g/L)		10a 当たり収量 (kg)	粗蛋白質含有率 (%)	外観品質	耐抵抗性						特性概要	栽培適地
													* さび病	* うどんこ病	* 赤かび病	* 萎縮病				* 凍害抵抗性	* 耐寒雪氷抵抗性	* 耐倒伏性					
小麦	あおばの恋	(朝重106号×Veery'S)'F. × 西海171号 (農研七, 平20)	平20	4.29	6.23	81	668	やや長	中	かなり難	中	II	40.7	814	659	9.6	中の上	中	強	強	強	強	中	早生。中稈だが穂数多く、耐倒伏性は中。穂発芽性はかなり難。耐寒雪氷抵抗性は強。アミノ酸含有率がやや低く、製麺適性が優れる。	山間丘陵地帯を除く県下一円		
小麦	シラネコムギ	北陸49号×東海80号 (農研七, 昭61)	平基元	5.07	6.28	84	537	中	閉	難	やや難	IV	41.2	817	610	9.8	中の中	強	強	強	強	強	中の早。中稈・強穂で草型も良く耐倒伏性で、耐寒雪氷も強。穂発芽性で外観品質も良く、加工適性が高く、麵用粉として食味も良好である。	山間丘陵地帯を除く県下一円			
小麦	ナンブコムギ	農林33号×農林27号 (農研七, 昭26)	平14	5.07	6.28	94	501	短	閉	難	難	V	43.7	811	536	-	中の上	強	強	強	強	中	中の早。長穂で倒れやすく、成熟がやや不揃い。千粒重が大きく、タンパク質含有率が高い。穂数はやや少なく、収量劣る。外観品質やや劣る。同程度。	山間丘陵地帯を除く県下一円			
小麦	ゆきちから	東北141号×式ひ系29号 (東北農研七, 平14)	平15	5.08	6.29	90	589	極短	やや開	中	中	V	39.1	806	587	-	中の上	強	強	強	強	強	中の早。中稈・強穂で耐倒伏性が強く、凍上雪氷抵抗性、耐寒雪氷も強い。赤かび病抵抗性はやや弱である。製パン適性が高い。	山間丘陵地帯を除く県下一円			

注1) 調査年次は平成16～20年(粗蛋白質含有率は平成15～18年のデータ)。

注2) 播種期: 10月中旬。

注3) *印の特性は育成地による。

種別	品種名	来歴 (育成場所, 育成年次)	採奨用品種区分年次	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	* 芒の長短	株の開閉	穂発芽性	* 脱粒性	* 秋播性程度	千粒重 (g)		容積重 (g/L)		10a 当たり収量 (kg)	粗蛋白質含有率 (%)	外観品質	耐抵抗性						特性概要	栽培適地
													* さび病	* うどんこ病	* 赤かび病	* 萎縮病				* 凍害抵抗性	* 耐寒雪氷抵抗性	* 耐倒伏性					
大麦	シュンライ	ミノリムギ×東山皮68号 (農研七, 昭44)	平3	4.25	6.13	89	559	やや長	閉	易	やや易	I	34.4	651	558	-	中の上	強	強	強	強	強	早生。中稈・強穂で草型も良く耐倒伏性強。赤かび、うどんこ病にやや強く、耐寒性は中であるが、外観品質が良く加工適性も良好である。	山間丘陵地帯を除く県下一円			
大麦	ミノリムギ	東山皮1号×コウガナムギ (農研七, 昭44)	昭44	5.01	6.16	101	622	長	中	易	やや易	IV	31.0	658	563	-	上の下	強	強	強	強	強	中生。多収。長穂で穂がやや開き、耐倒伏性はやや強。うどんこ病に強く外観品質も良い。	山間丘陵地帯を除く県下一円			

注1) 調査年次は平成16～20年(55%精白度は平成16～18年のデータ)。

注2) 播種期: 10月中旬。

注3) *印の特性は育成地による。

XII 奨励品種特性表 (大豆)

種別	品種名	来歴 (育成場所、育成年次)	採用品種区分年次	開花 期(月日)	成熟 期(月日)	主莖 長(cm)	主枝 数(本)	分枝 数(節)	主莖 節数	葉形	伸縮 有無	毛茸 有無	花色	熟莢 色	* 裂莢 性	実子						* 百粒 重(g)	* 形状	* 種皮 色	* 10a 当り 収量(kg)	粗たんぱく 質(%)	粗脂肪 (%)	全糖 (%)	* 外觀 品質	病害抵抗性			密播 適性	晩播 適性	栽培 適性	地域
																* 粒重 (g)	* 形	* 皮	* 種	* 色	* 質									* 病	* 害	* 性				
大豆	すずほのか	刈交778F ₅ × コスズ (東北農研、平19)	平20	8.08	10.12	60	4.2	15.2	三角	有限	有	白	紫	淡	中		9.2	球	黄白	黄	307	45.1	17.6	22.3	中の上	強	強	強	強	強	大	大	特性概要 莖長は短茎。分枝数多く、着莢数も多い。耐倒伏性は強。密播適性は並びに晩播適性が高い。ウイルス病抵抗性強。紫斑病抵抗性強。ダイズシストセンチュウ抵抗性弱。種小粒で品質良。納豆加工適性良好。	山間高冷地を除く 県下一円		
大豆	タンレイ	農林2号 × 東山6号(シロメ ユタカ) (長野県中信農試、昭53)	昭53	7.27	10.15	80	4.6	17.7	円	有限	有	白	紫	褐	中	30.2	楕円	黄	黄	382	44.6	19.9	22.0	中の上	強	強	強	強	強	大	大	莖長は中茎。主莖節数、分枝数やや少ない。莖莖量多いが耐倒伏性は強。多肥条件下は早播に適し、密播適性は並びに晩播適性大。立枯病、紫斑病抵抗性強。紫斑病抵抗性中。ダイズシストセンチュウ抵抗性弱。中粒で粒揃い良く品質良。	県下一円			
大豆	スズユタカ	刈系52号 × 東北35号(オク シロメ) (東北農試、昭57)	昭58	7.28	10.25	85	6.2	16.2	円	有限	有	白	紫	暗褐	中	26.3	扁球	黄白	黄	412	-	-	-	中の上	強	強	強	強	強	中	中	莖長は中茎。分枝数中程度。ウイルス病抵抗性強。ダイズシストセンチュウ抵抗性強。中粒で品質良。	県下一円			
大豆	コスズ	納豆小粒の放射線突然変 異系統 (東北農試、昭62)	昭62	8.12	10.17	70	4.5	16.2	円	有限	有	白	紫	淡	中	10.0	球	黄白	黄	289	45.4	17.5	21.2	上の下	強	強	強	強	強	中	大	莖長は長茎。分枝数多く、着莢数も多い。莖莖量やや少なく耐倒伏性弱なので早播、多肥に適する。転換畑で収量性高い。立枯病、紫斑病抵抗性強。ダイズシストセンチュウ抵抗性弱。種小粒で品質良。	県下平坦地並びに 転換畑			
大豆	あやこがね	東山124号(ホウレイ) × エン レイ (長野県中信農試、平11)	平11	7.29	10.17	81	4.6	18.4	円	有限	有	白	紫	褐	中	33.2	球	黄	黄	422	45.0	19.9	22.5	中の上	強	強	強	強	強	中	大	莖長は中茎。主莖節数、分枝数ともやや少ない。耐倒伏性は強。晩播適性は高い。ウイルス病抵抗性強。ダイズシストセンチュウ抵抗性弱。立枯病、紫斑病抵抗性中。やや大粒で品質良。豆腐、味噌加工に適する。	山間高冷地を除く 県下一円			
大豆	タチナガハ	東山61号 × 東山系G627 (長野県中信農試、昭61)	平8	7.29	10.19	86	4.8	18.5	円	長	有	白	紫	褐	中	34.2	楕円	黄	黄	402	42.7	20.6	22.7	中の上	強	強	強	強	強	中	中	莖長は中茎。分枝数やや少ない。ウイルス病抵抗性中だがウイルス系統によっては抵抗性がない。ダイズシストセンチュウ抵抗性弱。立枯病、紫斑病抵抗性中。紫斑病抵抗性強。やや大粒で品質良。	県下平坦地帯、山 間高冷地及び三陸 沿岸地帯			
大豆	きぬさやか	刈系508号 × 刈交0459F ₁ (東北農研、平17)	平17	7.31	10.19	70	4.5	16.7	円	有限	有	白	白	中	24.4	球	黄	白	黄	302	41.4	20.5	23.4	中の上	強	強	強	強	強	中	中	莖長は中茎。分枝数中程度。耐倒伏性は強。ウイルス病抵抗性強。ダイズシストセンチュウ抵抗性弱。立枯病、紫斑病抵抗性中。青臭みの原因であるリボキシンゲンナーゼとグルーブA7セチルサポニンを欠失しており、豆乳、豆腐加工に適する。	山間高冷地を除く 県下一円			
大豆	ミヤギシロメ	岩沼在来種の系統分離 (居城農試、昭36)	昭36	8.03	10.27	101	5.6	20.5	円	有限	有	白	紫	淡	中	38.8	や 楕円	黄	黄	406	44.1	19.3	23.7	中の上	強	強	強	強	強	小	小	莖長は長茎。初期生育旺盛。分枝数やや少ないが開張性、本葉大きく日光体勢不良で萎化、倒伏しやすい。紫斑病抵抗性強。立枯病、紫斑病抵抗性中。ダイズシストセンチュウ抵抗性弱。種大粒で品質良。	県下平坦地帯			

注1) 特性表の数字は、スズユタカは平成13年のみ、きぬさやかは平成17年のみ、すずほのか及びコスズは平成16～19年、その他は平成16～20年の奨励品種決定調査による。

注2) すずほのか、コスズは6月下旬播きの晩播栽培によるデータ。

注3) *印を付した項目は「大豆」種苗特性分類(農林水産省)によるもので、品種採用時の表記方法を用いているため、採用年次により同一特性でも表記が異なる場合がある。

ⅩⅢ 水稻奨励品種の年次別作付面積

(面積:ha, 割合:%)

年次 品 種	平成17年度			平成18年度			平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成22年度		
	項目	作付割合		作付面積	作付割合		作付面積	作付割合		作付面積	作付割合		作付面積	作付割合		作付面積		
		A	B		A	B		A	B		A	B						
うるち	ヤマウタ	7	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%		
	こころまち	87	0.1%	112	0.2%	119	0.2%	112	0.2%	119	0.2%	119	0.2%	1	0.0%	0.0%		
	やまのしずく	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	74	0.1%	74	0.1%	0.2%		
	おきにいり	60	0.1%	48	0.1%	39	0.1%	39	0.1%	57	0.1%	4	0.0%	4	0.0%	0.0%		
	ササニシキ	7,933	10.3%	7,804	11.0%	7,119	10.4%	7,119	10.4%	6,067	9.2%	6,255	9.6%	6,255	9.6%	8.9%		
	ササニシキBL	224	0.3%	163	0.2%	116	0.2%	116	0.2%	99	0.1%	47	0.1%	47	0.1%	0.1%		
	ひとめぼれ	65,764	85.1%	59,340	83.3%	56,662	82.6%	56,662	82.6%	55,384	83.8%	54,085	83.3%	54,085	83.3%	83.9%		
	まなむすめ	670	0.9%	1,974	2.8%	2,921	4.3%	2,921	4.3%	2,686	4.1%	2,942	4.5%	2,942	4.5%	4.4%		
	トヨニシキ	126	0.2%	153	0.2%	117	0.2%	117	0.2%	121	0.2%	148	0.2%	148	0.2%	0.2%		
	こいむすび	2	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0.0%		
	コシヒカリ	1,589	2.1%	1,233	1.7%	1,158	1.7%	1,158	1.7%	1,172	1.8%	1,055	1.6%	1,055	1.6%	1.6%		
	つや姫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	0.1%		
	美山錦	22	0.0%	21	0.0%	18	0.0%	18	0.0%	18	0.0%	21	0.0%	21	0.0%	0.0%		
	蔵の華	169	0.2%	168	0.2%	150	0.2%	150	0.2%	144	0.2%	136	0.2%	136	0.2%	0.2%		
	ゆきむすび	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	37	0.1%	37	0.1%	0.1%		
たきたて	215	0.3%	172	0.2%	180	0.3%	180	0.3%	145	0.2%	135	0.2%	135	0.2%	0.2%			
春陽	8	0.0%	7	0.0%	4	0.0%	4	0.0%	2	0.0%	3	0.0%	3	0.0%	0.0%			
その他	364	0.5%	16	0.0%	1	0.0%	1	0.0%	1	0.0%	6	0.0%	6	0.0%	0.0%			
計	77,240	100.0%	71,211	100.0%	68,597	100.0%	68,597	100.0%	66,053	96.5%	64,949	100.0%	64,949	100.0%	96.4%			
もち	ヒメノモチ	77	3.4%	113	4.2%	88	3.5%	88	3.5%	50	2.3%	41	1.8%	41	1.8%	0.1%		
	みやこがねもち	2,039	90.2%	2,360	87.2%	2,208	89.0%	2,208	89.0%	2,000	91.0%	2,319	99.3%	2,319	99.3%	3.3%		
	もちむすめ	142	6.3%	233	8.6%	186	7.5%	186	7.5%	147	6.7%	52	2.2%	52	2.2%	0.1%		
	その他	2	0.1%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	計	2,260	100.0%	2,706	100.0%	2,482	100.0%	2,482	100.0%	2,197	100.0%	2,412	100.0%	2,412	100.0%	3.5%		
合 計	79,500	-	73,917	-	71,076	-	71,076	-	68,257	-	67,361	-	67,361	-	100.0%			

注1) 作付割合のAは、うるち及びもち種別内の作付面積割合。Bはうるち及びもち種合計の作付面積割合。

注2) 平成17年以前の作付面積は、東北農政局食糧部調査資料の品種別作付面積比率(作付面積10a以上の農家を対象)で東北農政局統計部資料の県作付面積を換算した。

注3) 平成18年以降の作付面積は、(社)みやぎ原種苗センターからの種子供給量を面積換算(4kg/10a)した。合計面積は東北農政局統計部発表とは一致しない。

XIV 麦類奨励品種の年次別作付面積

(面積:ha, 割合:%)

年次 品 種	項 目	平成17年産			平成18年産			平成19年産			平成20年産			平成21年産			平成22年産			
		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		作付 面積	作付割合		
			A	B		A	B		A	B		A	B		A	B		A	B	
大麦	ミノリムギ	669	50.3%	22.4%	608	47.5%	20.6%	608	47.5%	22.4%	521	41.3%	19.0%	550	43.6%	20.2%	510	40.8%	19.2%	
	シュンライ	661	49.7%	22.1%	672	52.5%	22.8%	672	52.5%	24.7%	739	58.7%	27.0%	711	56.4%	26.1%	739	59.2%	27.9%	
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	計	1,330	100.0%	44.5%	1,280	100.0%	43.4%	1,280	100.0%	47.1%	1,260	100.0%	46.0%	1,261	100.0%	46.3%	1,249	100.0%	47.1%	
小麦	シラネコムギ	1,421	85.6%	47.5%	1,329	79.6%	45.1%	1,162	80.7%	42.7%	1,221	82.5%	44.6%	1,211	82.9%	44.5%	1,099	78.3%	41.4%	
	ナンブコムギ	35	2.1%	1.2%	33	2.0%	1.1%	6	0.4%	0.2%	39	2.6%	1.4%	29	2.0%	1.1%	25	1.8%	0.9%	
	ゆきちから	204	12.3%	6.8%	308	18.4%	10.4%	272	18.9%	10.0%	220	14.9%	8.0%	218	14.9%	8.0%	214	15.3%	8.1%	
	あおばの恋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.1%	0.1%	65	4.6%	2.5%
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	計	1,660	100.0%	55.5%	1,670	100.0%	56.6%	1,440	100.0%	52.9%	1,480	100.0%	54.0%	1,460	100.0%	53.7%	1,403	100.0%	52.9%	
合 計		2,990	100.0%	100.0%	2,950	100.0%	100.0%	2,720	100.0%	100.0%	2,740	100.0%	100.0%	2,721	100.0%	100.0%	2,652	100.0%	100.0%	

注1) 作付割合のAは、大麦及び小麦別の作付面積割合。Bは大麦及び小麦合計の作付面積割合。

2) 平成17年以前の作付面積は、東北農政局食糧部調査資料の品種別作付面積比率(作付面積10a以上の農家を対象)で東北農政局統計部資料の県作付面積を換算した。

3) 平成18年以降の作付面積は、(社)みやぎ原種苗センターからの種子供給量を面積換算(4kg/10a)した。合計面積は東北農政局統計部発表とは一致しない。

X V 大豆奨励品種の年次別作付面積

年次 品 種	平成17年産		平成18年産		平成19年産		平成20年産		平成21年産		平成22年産		
	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	作付面積 (ha)	作付割合 (%)	
大豆	ミヤギシロメ	3,907	43.0%	4,052	41.3%	4,183	38.7%	4,679	38.7%	4,163	36.2%	4,118	39.0%
	タンレイ	3,029	33.3%	3,375	34.4%	3,732	34.6%	3,995	33.0%	3,772	32.8%	3,356	31.8%
	スズユタカ	58	0.6%	46	0.5%	81	0.8%	148	1.2%	23	0.2%	0	0.0%
	コスズ	228	2.5%	227	2.3%	221	2.0%	223	1.8%	161	1.4%	40	0.4%
	タチナガハ	964	10.6%	1,163	11.9%	1,497	13.9%	1,679	13.9%	2,024	17.6%	1,700	16.1%
	トモユタカ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	あやこがね	670	7.4%	674	6.9%	603	5.6%	929	7.7%	851	7.4%	707	6.7%
	きぬさやか	—	—	22	0.2%	358	3.3%	350	2.9%	391	3.4%	377	3.6%
	すずほのか	—	—	—	—	—	—	—	—	58	0.5%	194	1.8%
	その他	234	2.6%	241	2.5%	125	1.2%	97	0.8%	58	0.5%	61	0.6%
合 計	9,090	100.0%	9,800	100.0%	10,800	100.0%	12,100	100.0%	11,500	100.0%	10,553	100.0%	

※平成22年産は、農産園芸環境課による播種状況調査結果。